

地域支援だより

平成23年9月16日

第16号

秋田県立秋田きらり支援学校  
地域支援部

# きらりNet

## スイッチ教材を作ろう！

7月26日に行われた自立活動研修会（スイッチ教材製作）には、他校を含め約40名が参加しました。講義「ATとスイッチ教材」では、AT（Assistive Technology）の基本的な考え方を学びながら、様々なスイッチ教材の紹介や材料入手の方法など役立つ情報の話がありました。実技では、初めてはんだ付けに挑戦するという参加者も多く、参加者同士で協力しながらの教材製作となりました。今回は、4種類の教材を製作しました。参加者からは「ATについての距離が縮まったような気がする」「教材製作はそれほど難しくないことが分かったので、今後もまた自分でも作りたい」という声が聞かれました。



## 研修会で製作した教材

BDアダプター	棒スイッチ（どっちもクリップ）	改造マウス	CDVOCA
 <p>スイッチ製作の定番。電池式の遊具や教材の電池ボックスに銅板を挟むことで、スイッチ操作が可能になります。</p>	 <p>関東ではきりたんぼスイッチと呼ばれています。どの方向からの力でもスイッチの操作が可能になります。</p>	 <p>スイッチ用のジャックを取り付けることで、パソコンのクリックが可能になります。</p>	 <p>CDの蓋を閉じることで、音が鳴る仕掛けのVOCAです。</p>

## 改造マウスと棒スイッチをつなげて

一般向けの市販品に簡単な工夫をしたり、工作を加えたりすれば障害のある子どもでも十分に使えるようになる物がたくさんあります。



ここに棒スイッチをつなげる。



緊張などからうまくマウスのクリックが難しい生徒でも、改造マウスに外部スイッチをつなげることで、操作性が高まります。

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

連載 本校の授業の様子から

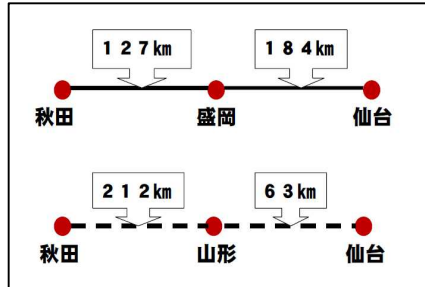
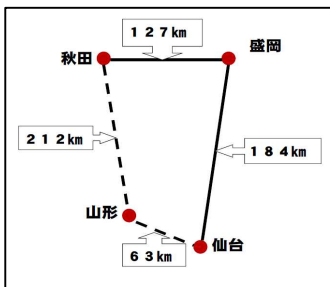
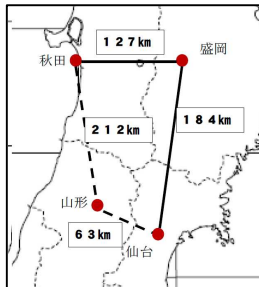
### 見やすい教材のポイントは？

～高等部 数学の学習グループから～

たくさんの情報が載っている地図や統計資料の中から一つの情報を選択して読み取ることは、見ることが苦手な児童生徒にとってはとても難しいことです。「見る」といっても、単なる視力のことだけではなく、動く物や線などを目で追うこと、たくさんの線の中から点線などを見つけ出すこと、黒板からノート、ノートから隣の友だちへと目をジャンプさせて見ることなど様々な働きがあります。今回は、児童生徒の視知覚や認知にどのような配慮や工夫をすれば、見やすい教材などができるか考えてみたいと思います。

のプリントは、手書きのプリントです。マーカーで色分けをしたり線の種類を変えたりして、分かりやすい工夫をしたつもりでしたが、見ることが苦手な生徒にとっては、数字や線などが多すぎて、見つけたい情報を探すのに苦労するということが分かりました。 のプリントは、できるだけ必要な情報に絞り（ノイズを消す）、文字も大きめの活字にしたものです。 のプリントは、線を目で追うことが苦手な生徒への工夫です。直線的に表し、より単純化を図りました。

このほかに、コントラストを高めたり、反対色を使って色を見やすくするなどの工夫があります。



### 活躍してます！！ボランティア

#### 図書ボランティア編

きらり支援学校では、図書ボランティアとして2名の方が活躍しています。本校の前身である秋田養護学校と勝平養護学校から持ってきた蔵書にきらり支援学校の学校名のスタンプを押してもらったり、図書台帳に本の題名や分類番号を入力してもらったりしています。今年度は、8月までに計10回来校していただきました。手際のよいパソコンさばきで、あっという間に作業が進み、とても助かっています。



秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記までご連絡ください。

教頭 初山 節子 地域支援部 遠藤 美和子

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail：kirari-s@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573

FAX：018(889)8575



次号は10月21日発行予定です。